

# 消防団員の思い

市民の安全、安心を守るため、日々さまざまな活動を行っている消防団員の方に、その活動内容や意気込みなどについてお話を伺いました。



袋井方面隊第4分団  
分団長  
小澤知則さん(中久能)

## ○分団長になって感じた「信頼」という名の絆

平成20年度、分団長になって感じたことは、「責任」です。4月から分団長として何ができるかが私のテーマでした。当初は、心配ばかりする毎日でしたが、5月から礼式訓練、続いて操法訓練が始まり、気持ちが変わってきました。早朝からの訓練で体力的にも精神的にもとても厳しい時期でしたが、団員の目標に向かってまい進していく姿を見てると、徐々に不安が解消されていきました。分団員の分団に対する熱い思いが伝わり、一人で消防団活動をしているわけではないと感じ、「信頼」という大切なものを手に入れることができました。

今後は、諸先輩方から教えていただいたことや自分の伝えたいことをできるだけ多く伝え、団員が気持ちよく活動できるように心掛けていきたいと考えています。責任を持ち、分団長の任務を遂行する覚悟です。

分団長としての経験は、自分の人生にとって貴重なものであると思います。常に思いやりの気持ちを忘れることなく消防団活動に取り組み、今後の人生に生かしていきたいと思っています。

## ○地域防災のかなめとなる消防団

消防団に入団して9年目を迎え、分団長を拝命しました。それも早いもので半年という月日が流れようとしています。入団から8人の分団長をはじめとする先輩方、そして多くの仲間に出会うことができ、たくさんのことを学ぶことができました。

入団当初は白昼の火災出動が多く、もともと昼間の出動には人数が限られるため、即戦力として鍛えられました。ポンプ車に乗り込み現場に直行する車内での役割分担、専ら火点に向けて放水を担当していました。今思えば、管鑰(※)という言葉も知らず聞き返したこともありました。月日が経つにつれ、教わる立場から教えていく立場に変わっていきました。

最近では労働環境の変化や実家から離れて暮らす家庭の増加に伴い対象者の減少、団員確保の難しさを痛感しています。しかし、消防団は存続していかなければいけない組織です。今の自分があるのも多くの先輩方、仲間たちの支えだと思っています。数年後、数十年後も消防団が活発に活動できていけるよう育成に尽力し、地域防災の意識の高い人材を養成していきたいと思っています。

※放水する時にホースに装着して使う道具



浅羽方面隊第3分団  
分団長  
金原孝行さん(浅羽一色)



袋井方面隊第3分団  
新入団員  
磯部幸善さん(小野田)

## ○人と人とのつながりが築ける消防団

私は、2007年秋から、愛野に住み始め、その冬、消防団入団の誘いを受けました。18歳で実家を離れ13年間、地域社会の活動に関わらず長く生活してきたこともあり、地域、自分の住むまちに対して、自分が何をしていかなければならないかと考えたこともなく、初めは少し戸惑いもありました。しかし、袋井市に一生住むと覚悟して、家を建て、住み始めたからには、自分の住むまちに少しでも関わっていこうという思いがあり、消防団に入団することを決めました。

入団式の日、一つ一つの行動において統率の図られた消防団を目の当たりにして、少なからず驚きと自分が消防団活動が続けていくことに不安を感じました。しかし、初めて火災出動した時、実際に自分たちが、自分のまちの災害に対して行動していかなければならないという思いが、緊張感とともに実感としてわき上がってきました。また、それまで漠然と見てきた消防団が、日々の活動によって支えられていることに実感を持ちました。

県外から移住してきた私としては、人と人とのつながりを作ってくれた消防団には感謝の気持ちがあり、今後も消防団活動を、人と人とのつながりを持って、お互い助け合っていくという精神で続けていこうと思っています。

## ○地域防災の意識高まる

私が消防団に所属してから半年が経過しようとしています。土日休むことが困難な業種のため、最初は断ろうと思ったのですが、分団の皆さんに「地域の防災のためには、一人でも多くの協力者が必要」と言われ、参加することにしました。

入団してからも、なかなか仕事の都合が付かず、参加できることが、夜警と早朝訓練がほとんどという状態でした。早朝訓練は、朝早い職業のため、早めに終わらせていただくことがあったのが残念でした。早朝訓練に参加することは、睡魔との闘いでもありましたが、初めてのことを学んでいくことは興味深く、楽しいものであり、地域防災の一端に関わっているという自覚が徐々に芽生えてきました。

進学のため地元を離れてから、消防団というものに触れることがなく過ごしてきたため、右も左も分からない状態からの参加でしたが、団員の皆さんから訓練だけでなく訓練以外でも親しくしてくれるので、地域の人間として消防団に参加することは意義のあるものだと感じました。



浅羽方面隊第2分団  
新入団員  
近藤隆さん(豊住)

## ○人を感動させられる音色を奏でたい

消防団に入団し、初めてラッパ隊という組織の存在を知りました。まさか、自分が分団の代表として、ラッパ隊の一員に選出されるなんてという思いと同時に、ラッパ隊ってどんな活動をするのだろうかという気持ちが頭の中に浮かびました。

そして、初めてラッパ隊の訓練に参加した時です。自分はいくら吹いても息が漏れる音しか聞こえませんでした。それでも先輩ラッパ手の方々の指導のもと少しずつ音が出るようになり、曲も少しずつ吹けるようになってきました。その時のうれしさは今でも忘れません。

日ごろの消防団活動に加え、仕事を終えてからの夜間訓練はなかなか厳しいものです。そのような厳しい訓練の中でも自分なりの音、曲に対するこだわりを持ち、ラッパ吹奏の楽しさを見つけることが上達につながると思います。

そして、基本の大切さ、自己訓練の重要性を今後の訓練で身に付けていき、同期入隊者や先輩ラッパ手の皆さんと伝統ある袋井市消防団ラッパ隊の一人として、大会などの式典で曲を聴いた人が感動してくれるような吹奏ができるラッパ隊員を目指して頑張っていきます。



袋井方面隊第4分団  
新人ラッパ隊員  
高橋俊光さん(堀越五丁目)